

2024年度多文化共生パートナー育成講座 振り返り (NGO側コアグループ)



NGO側コアグループの変遷

(コアグループの人材：input=企画・運営・実施 output = 橋渡し役育成)
シニアからユースへのイニシアチブの移行が課題

2022年度 21名 2023年度 22名 2024年度 18名

「with Diversity - 知る、つながる、ともに暮らす」(コアグループ会合12回開催)

連続講座3回修了生 22名

- 海外ルーツ 3
- 多文化共生 4
- 中間支援 8
- ユース 7

(2021年度参加者: 5)

「マイクロアグレッションって何だろう？」連続講座-2回目は現場訪問(コアグループ会合、全10回開催)

3回修了生は12名

- 海外ルーツ 2
- 多文化共生 2
- 中間支援 7
- ユース 11

(2022年度参加者: 6)

「ビロンギングって何だろう？」連続講座-2回目は現場訪問(全10回開催)

3回修了生は20名

- 海外ルーツ 4
- 多文化共生 3
- 中間支援 4
- ユース 11

(2023年度参加者: 6)

制度や歴史的背景、社会的課題など構造的問題があることを知ってもらい、自己を振り返り、気づき、意識を変えてもらうことで、無関心層と海外ルーツの市民や支援団体の橋渡し役をする人になってもらう。

第1回（交流会+ワークショップ+講演）

【11月2日（土）】11時～17時 @JICA中部

AM：【交流会】

・世界を知る！

南米の言語や文化を楽しく学びながら、参加者同士の交流を深めよう！各国のスィーツも楽しめます！

PM：【ワークショップ】

・無意識の差別/偏見を考える

自分の考え方を見つめ直し、多様性を受け入れるためのヒントを学ぼう！

：【特別講演】「日本社会と南米日系人」

講師 松宮朝氏 愛知県立大学教育福祉学部教授

参加者30名(高校生6, 大学生17 社会人7)



第一回講座振り返り (グループファシリアンケート 回答11/15)

良かった点	改善点
<p><プログラム全般></p> <ul style="list-style-type: none">•午前中にお菓子やゲームを通して交流する機会を持ったことで、午後に腹を割って話し合える関係が作れた。•ワークショップをしてから講演を聞く流れもよかった。講演ではメモをとって話を聞いていた。	<p><ワークショップ></p> <ul style="list-style-type: none">•ワークショップの時間は短いように感じた。講座の時間を1時間早めて、10時開始でも良いかと思った。•共有の時間が短かった。•マイクロアグレッションに関する事例をもう2個ほどあげることができたら、理解に深まったのではないかと。•ディスカッション・アクティビティの時間を増やす。
<p><参加></p> <ul style="list-style-type: none">•皆積極的に参加しており、やる気と活気が感じられた。•グループのみんながワークショップで意見を出してくれて活発に意見交換もできた。	<p><講演></p> <ul style="list-style-type: none">•自分と日本に住む外国にルーツのある方々との問題を繋げるのが難しかったように感じる。特に、松宮先生のお話で身近に感じていた問題が一気に遠く感じてしまった印象がある。•専門の先生にお話いただくと、急にそこだけが飛躍して感じてしまうので、日本社会における南米ルーツをもつ人々に関する基本情報の提供を私たちで作成して行っても良いかと思う。•ミクロレベルのカルロスさんの話とメソレベルの松宮先生の講演を繋げる一言があれば分かりやすい。
<ul style="list-style-type: none">•所属も年齢もバラバラでグループの構成に偏りがなかった。•高校生にとっては全員年上という環境下で少し緊張が見られたが徐々に打ち解けていたのでよかった。	<p><ファシリテーション></p> <p>次のアクティビティにすぐに移ってしまったので、「〇〇が分かりましたか？」などワンクッション入れたほうが良い。</p> <p>ワークショップのやり方について各グループで違いがみられた？（例；用紙の半分を見せるか、初めからすべて見せてしまうか / 議論で何を話すべきか項目を具体的にあげる、あげない等）統一すべきか、個人の技量に委ねるか</p> <p>捉え方が違っていたので進行をより分かりやすくした方が良い</p>
<ul style="list-style-type: none">•南米ルーツの高校生は、南米ルーツの大学生やブラジルにボランティアに行かれた社会人の方と打ち解けていた。	
<ul style="list-style-type: none">•グループメンバー全員が発言をしていた。	<ul style="list-style-type: none">•グループ発表の内容がまとまらなかった、時間を意識して話し合いを行えばよかった。
<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none">•海外にルーツを持っていたり、ボランティアや留学等で海外と関わる機会を積極的に持っている人が多く、それぞれに思いを持っているのが感じられ、参加者同士や参加者とコアメンバーとの繋がりや新たな活動に発展させられる予感がした。•参加理由を聞いてみるとJICAの国際協力に興味を持っている、や就活や将来の進路のために参加したと教えてくれた	<ul style="list-style-type: none">•マイクロアグレッションに関するワークショップの進め方が難しかった。（特に後半）•話し合いをする際に発言をする人が少し偏ってしまった印象があった。（知識の多い年代、社会人や大学生）•特定の人しか発言をしていなかったのもっと話を振ったり、メンバーに聞く質問の質を高めたいです。
<p><広報></p> <ul style="list-style-type: none">•ハードルが高くならず参加しやすいようにできたのは宣伝活動のおかげだなと思った。（面白そうだからや何か得られそうとおもってこの講座を選んで参加してくれた。）	<ul style="list-style-type: none">•ファシリが柔軟に進行できるように、勉強の場を、上手な人のファシリを体験／受ける

第2回（現場訪問+交流）

【11月16日（土）】10時～17時 @豊田市保見団地



AM：海外ルーツの子どもたちと地域に触れる

- ・海外ルーツの子どもたちの学習支援

学習支援教室JUNTOSを訪れ、子どもたちの学習をのぞいてみましょう！

- ・保見団地の散策

海外ルーツの人びとの生活の場を感じてみませんか？

PM：高齢者サービスと海外ルーツのユースとの交流

- ・高齢者サービスの現場を学ぶ

ケアセンターほみを訪問し、現場の課題と解決策を学びます。

- ・海外ルーツのユースとの交流会

多様な海外ルーツのユースたちと出会い、交流しましょう！

参加者28名(高校生4, 大学生17、社会人7)

第二回講座振り返り (グループファシリアンケート回答 11/15)

良かった点	改善点
<p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none">•最初からグループに分かれて行動したことで、丸一日一緒にいる形となり、去年よりグループの他のメンバーと打ち解けられた。•アパートの中に入ることができた。•散策の途中で質問を受けたりしたが、ただ流れで見るだけでなく疑問をもちながら散策ができていた。•海外ルーツのユースとの交流のところで、目立ったマイクロアグレッション等はなかった•海外ルーツのユースの皆さんからも、希望を見出されたり、楽しかったといった感想を聞いた。	<p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none">•全体の時間が押し気味であった。保見駅から徒歩による集会所到着の遅れ、食事手配の遅れ、などが主な原因。•JUNTOSの活動見学では、結構な人数がつっ立っていることになっていた。コアメンバーが積極的に交流する必要があった。•JUNTOSとのお昼を挟んだ交流が昨年に比べて不十分。(2人しかメンバーがいなかった)•質問出しのグループワークでは、時間が5分と短く、効率よく進めることが必要だったが、7-8分あってもよかった。•本当の間取りのアパートも見れたら良い。
<p><参加></p> <ul style="list-style-type: none">•タイムラインを上手く活用でき、深い話もみんなで話すことができた。•多様なアイデアが出ていた。•積極的にメモを取って話を聞けていた。•自分の考えを共有できる時間があった。参加者同士で質問をしあったりできていた。個々の考えや質問を聞き出せた。•グループ内のナイーブな話もちょうど真剣に聞いて受け止めていた。	<ul style="list-style-type: none">•パウロさんのお話は、人生に対して達観されていて、ご自身の経験を踏まえてのメッセージをお伝えいただいた感じで、参加者の皆さんからしたら少し話が飛躍して聞こえたかも。対談形式ですると良いか。•日系ユースとの交流では予定した6人が5人となり1グループが解体となった。3回目のグルーピングが課題。•7人ほどが1人の話をメインに聞くという体制に無理がある。•海外ルーツをもつユースとの交流は、グループによって、どのようだったかがまちまちな印象を受けた。 <p><ファシリテーション></p> <ul style="list-style-type: none">•グループ内での発言が偏ってしまった。同じ人がずっと喋る状態を防ぐためにタイムキーパーとしての役割を果たすべきだった。•話し合いの時、うまくファシリテーターを務めることができなかったので、リーダーシップを身につける必要性を強く感じた。また、海外にルーツを持つユースに集中的に話を聞きすぎてしまったので、もっとバランスよく話を引き出せればよかった。•海外ルーツをもつユースとの交流会では、ファシリが率先して自分の話をしていく必要があったと思うが、あまり自分の話をしたくないという声も聞いた。•タイムラインについて、自分のことを言うのに抵抗がある人がいた。
	<p><参加></p> <ul style="list-style-type: none">•高校生が各グループに一人で、私の班の子は特に緊張しているような感じがした。•自分の考えをうまくまとめられていない子・どう質問したら良いのかわからない様子でした(特に斎藤先生のお話)。

ビロンギングについて話し合ったこと。考えたこと。

<海外ルーツ・参加者共通>

- それぞれビロンギングが異なることは当たり前で、相手のビロンギングをいかに大切にしてお互いの居場所を共有することができるかで、繋がりがより深くなるのではないかという話になった。
- 人生で沈んでいたところから上がってくる時にビロンギングを感じていた人が多かった。具体例としては、友達や家族がそばにいと再認識したり、海外に行き見知らぬ人と交流することで充電されるという人もいた。
- 自分の経験談を通して、海外にいた時に感じた疎外感やそれを打開した方法など共有できた。
- 引越しを機に居場所作りが難しかった・孤独を感じたという人がいた。

<海外ルーツのビロンギング>

- 勉強のために中学校を西側(保見中学校?)から東側(井郷中学校?)に引っ越した事で、海外ルーツの学生が全然いなくなったこと、学生生活に馴染めず、高校でも同様な状況だということ。部活で踊っている時や、好きな音楽を聴いている時が居心地の良さを感じるが、他者との繋がりが無いということだった。
- 南米ルーツの男性が6歳の時来日して、今はモビリティのガラスのラインの仕事に就いてみえる話をされた。友人の存在が大きいと思われたが、なかなか会えない。オンラインゲームで繋がっていてそれはそれでビロンギングか。
- 南米ルーツのユースの話では、母親とのコミュニケーション方法や、来日してからビロンギングを感じるか?(学校やバイト先での居場所)母親と日本社会との関わり等それぞれが気になる質問を話すことができていた
- 保見のユースが保見の様子やコロナ禍の様子などを話してくれた。彼女の周りでは共助の関係がとてできていたという印象。
- ブラジルルーツのユースが転校先の小学校で差別の経験を具体的に話してくれた。そのような差別の中にあっても、一人の友達のお母さんが、放課後、自宅に招いてくれたことが救いになったことを伝えていた。ビロンギングの事例だと思った。

第3回(まとめ+アクションづくり)

【12月7日(土)】10時~17時 @JICA中部

AM: 第2回講座振り返り/ビロッキングの理解

- ・保見団地訪問の振り返り
現場訪問の経験を振り返り、気づきを共有します。
- ・ビロッキング(みんなが居場所を感じ活躍できる社会)の重要性を考える
日本社会の状況からビロッキングについて理解し、多文共生のヒントを得よう!

PM: 未来へのアクションづくり

みんなが居場所を感じ活躍できる社会(ビロッキング)へ向け、わたしが出来ることは? 未来に向けて取り組むステップを明確にするため、みんなで意見を交わします。

修了生20名(高校生, 大学生, 社会人)



第3回講座振り返り（グループファシリアンケート10/16回答）

良かった点

<プログラム>

- 前はマイクロアグレッションを勉強し、今回は次のステップ（ピロニング）に繋がった。
- 一つの課題（ピロニング）について熟考することができた。
- 課題を自分のつながりや将来と結び付けて話し合うことができた。
- 素敵なカラフルなマインドマップがたくさんあって、今後実践しそうな人が多いのではないかと期待している。
- アクティビティ多めで、参加者も楽しそうに取り組んでくれた。
- 合間にあったクイズやエナジャイザー等で参加者も話しやすい雰囲気になった。
- マインドマップやアクションプラン等、学びを自分の言葉でまとめる、それを活かす方法を考える時間があつたので、主体的に取り組める内容でよかったと思う。
- 視覚的に見れるマインドマップは特に、考えていることやそれぞれの想いを表現しやすい。
- 関心；集中力を切らさずにできていた。（タイムスケジュールが分刻みに近くそれが気持ちの切り替えになり、参加者にとっては集中できる要因）

<参加>

- 3回を経て、グループメンバーの関係が出来ていて、お互いの話をしっかり聞いていた。
- じっくり一人一人の話を聞いた。また、2回目と同じメンバーだったことである程度気心が知れ、スムーズに議論ができた。
- グループでの話し合いでは、人数が少なかった分、発言者が偏ることがなかった。
- 誰の意見も否定するとかなく話し合うことができた。
- 参加者全員が主体的に取り組んでもらえた。個々人取り組みに前向きだったのがまずよかった。
- 参加者は自分が所属するコミュニティで学びをどのように活用していくかということを考えられていたように思う
- 団体リストにも目を通し、キーワードで気になった団体にも興味を示していたので、講座全体を通じて関心は常時上向きだったと思う。

<司会、ファシリ>

- 全体司会、ファシリが良く準備をしてくれていたもので、進行がスムーズであり、かつ、各アクティビティの様子なども、うまくつかみ、まとめていた。ワークショップの指示も明確であった。
- 司会同士で補足情報を気軽に言うことができた。

<参加者>

- 高校生から大学生、社会人と年齢幅があったことがそれぞれ異文化、多文化だった。
- 色んな人と出会っていききたいという気持ちが強く行動力のある人が参加者が集まったグループであった。

改善点

<プログラム>

- ワークショップのそれぞれのステップにかかる時間があわただしかった。それぞれ1.5倍から2倍の時間がほしかった。
- 特権を考えるアクティビティについては、2列目以降は投げても届かない距離であった。レイアウトを変える必要がある。
- 1回目講座からピロニングの要素を見出すワークでは、松宮先生の資料は充実していたが、マイクロアグレッションの資料もあると、スムーズだった。
- クイズゲームの質問と答えがもっと短い文書にした方がいい。
- アクションプランを考えるのが難しかった。第1回第2回と関連させなければいけないと思っている参加者もいた。また、個人ですぐ動きそうな計画を立てている方もいたが、第4回を視野に入れて考えていた方が次につながったのではないかな。
- 団体リストは、団体の説明をしてから渡す。

<全体運営>

- 予想以上に多くの欠席者があり、グルーピングに影響した。2回目の保見団地訪問が、参加者の最大の期待であって、ある意味スタディツアーのようなもの。それを振り返り、学びを深める3回目の意味をしっかりと参加者に理解してもらい、欠席者を減少させる必要がある。
- 欠席者は、なぜ欠席した？体調不良？私たちの声かけ不足や、フォロー不足とかではないか？
- 今回配布した「未来へのアクションづくり」シートのようなものが1回目、2回目にもあると、参加者が講座を振り返ったり、考えを整理したりするのに役立つ。
- 次の講座の向けて課題などがあつたら復習しやすい。
- 仕事はもう少し分配したほうが良い。ユースのより中核での貢献を促すためにも、半強制的にでも、皆さんにどこかの講座の担当となってもらい、ワークシート1枚ずつでも担当していただければ良い。
- ミーティングに参加できない、参加しても意見を言うことに対するハードルはそれぞれだと思つるので、気持ちや講座への想い等、なんでも良いがフォームを別で作成しても良いかもしれない。場合によっては匿名でもいいかも？

<ファシリテーション>

- ファシリとしての勉強会も開いて欲しいと思います。そうしたらもっと自信を持って会に参加できると思います。
- ファシリから、講座内容の理解が乏しいまま当日を迎えた、との声があつた。もう少し余裕を持って各講座の準備をし、勉強会を開いたり、予行練習などができたら良いと思つた。

目的の達成度 (2月18日第10回コアグループ会合-参加者9名で協議)

[第1回講座目的1]

交流会、講義とワークショップによりマイクロアグレッションについて理解し気づき、すべての人にとっての居場所や排除について考える。 4/5

(理由)

<スタート地点に立てた>

- ・ 居場所や排除について考えることはできた。人それぞれの嫌だという境界線がわかった。
何が排除につながるかがわかった。
- ・ ビロッキングを阻害するものとしてのマイクロアグレッションについて司会が説明していた。
これからビロッキングを考えましようにつないだ。

<自分たちの経験にひきつけて理解できた>

- ・ グループに海外ルーツが2人いてその存在で理解できた。

目的達成度（コアグループ会合より） 2

[第1回講座目的2]

2. 日系ブラジル人コミュニティの歴史と現状と課題、特に日本社会の制度的な問題との関連について知り、外国人の問題ではなく、自分たちの問題でもあることに気づく。すべての人にとっての居場所や排除について考える。 3/5

<歴史と現状と課題の理解>

- ・ 講演内容について、情報量が多かった割に、短時間であったので、内容に対しての理解度が低いように思う。現状の理解で精一杯であった。
- ・ 介護保険など若い世代がどこまで理解できたか。若い人の問題に焦点をあてたほうがよかった。→日本の構造的な問題に迫るためには必要。リアリティから迫ると狭い問題の扱いになってしまう。大半の人にとってはリアリティがない問題になる。
- ・ 日系ブラジル人コミュニティの歴史と現状と課題については抑えていたが、日本社会の制度的な問題との関連について知ることは、あまりできていなかった。
- ・ 1回でこの目的を達成したかどうかを判断するのに無理がある。3回目との関連も考慮する。

目的達成度（コアグループ会合より） 3

2. 日系ブラジル人コミュニティの歴史と現状と課題、特に日本社会の制度的な問題との関連について知り、外国人の問題ではなく、自分たちの問題でもあることに気づく。すべての人にとっての居場所や排除について考える。 3/5

<自分たちの問題として気づく>

- ・ 講演とワークショップとの関連づけるのが十分でなかった。自分事に落とし込む印象がない。
- ・ 外国人の問題ではなく、自分たちの問題でもあることに気づく、については1と合わせると出来ていたのではないか。

<すべての人にとっての居場所や排除について考える>

- ・ 人権問題として考えたときに、公平、公正につなぐべき。
- ・ マイクロからいきなりマクロにいくのではなく、構造の中で中ぐらいのレベルにおけるマイクロアグレッションを考える。

<改善案>

- ・ 保見訪問の中で見ていくポイントに焦点をあてて講演をお願いするというのも改善につながる。→公営住宅、南米ルーツについても知る必要がある。
- ・ 誰かに講演をお願いするのではなく社会制度のことを考えるアクティビティを入れる。

目的達成度（コアグループ会合より） 4

[第2回講座目的] 海外ルーツの人たちの生活の場、コミュニティに参加者が身をおき触れる。4/5

(理由)

<参加者>

- 参加者がメモを取るなど、吸収しようという主体性があった。（グループで共有する時間もあった。）→議論する時間も考慮してタイムスケジュールを再考する。
- 参加者が主体的、積極的にかかわっていた。見せる側,上江洲さん、パウロさんの話について話す工夫があるとよかった。→インタビュー形式も一案。
- 運営面の問題はあったものの参加者にとっては良かったのではないか。

<JUNTOS>

- JUNTOSの活動見学一突っ立っていたのでカットしてもよいか。←前後の文脈を知らないとわからない。むしろスタッフの話をしっかり聞く。斎藤先生の話もどうするか。

目的達成度（コアグループ会合より） 5

【第2回講座目的】 海外ルーツの人たちの生活の場、コミュニティに参加者が身をおき触れる。4/5

（理由）

<南米ルーツのユースとの交流>

- 保見団地の海外ルーツのことを知りたいという目的で講座に参加している人が一定数いる。それらの参加者の意見をどこまで尊重するか。
→交流だけでなくテーマや構造につなぐ。交流目的であれば人数をそろえる必要がある。
- 海外ルーツのユースを身近に思うためにはユースとの交流は必要。日本人参加者の人数とユースとの兼ね合いがある。→人数を絞った場合はインタビュー形式にするか。
- ビロッキングにつなげようとして話が滞った。その後、参加者の関心に任せたら、その人のことを知りたいという方向になった。
- コアメンバーに海外ルーツのユースも入れてもよいのでは。

（改善案）

- 保見訪問の目的をしぼるのもあり。
- 招くユースをこちらの目的に合わせてしぼる。

目的達成度（コアグループ会合より） 6

〔第3回講座目的1〕 保見団地訪問の振り返り、制度的、構造的問題との関連を考える。 4/5

(理由)

<振り返りと整理>

- 講座の振り返りを丁寧にした。自分たちが何をしてきたかをしっかり整理できた。プログラムとして整理して次へ、という流れが出来ていた。

<マインドマップ>

- マインドマップにまとめるというのが良くわからなかった。ファシリの間で共通理解をもって参加者に伝えたらよかった。

→学んだことのまとめになっていたか。言語化して整理するということとは別もの。言語化と視覚化の2段階がある。

<制度的・構造的問題との関連>

- (グループの)参加者も少なく制度的、構造的問題につなぐことができなかった。

目的達成度（コアグループ会合より） 7

[第3回講座目的2]多文化社会を共創するためのアイデアをだし、橋渡し役としての自分の役割(地元における)を考えることでアクションプランを作成する。 4/5

(理由)

<目的の確認>

- 個人の関心と多文化共生をつなぐ。4回目、5回目で達成する。
- 今回はハードルを下げて自分に何ができるか、というところを目指した。

<個人の関心と多文化共生社会の共創>

- 新しいコミュニティで新しいアクションをするという感じではなかった。
- 多文化社会を共創するというよりは、個人の取り組み(自分のやりたいこと)になってしまった参加者がいた。
- 今悩んでいたことに対するアイデアが得られたとか、交流ができたので情報が得られたという参加者がいた。
- インバウンドの問題や環境問題でのアクションを考えた人がいた。
- すでに所属している場にいる海外ルーツの人に対してのアクションを考える橋渡しではなく、自分の中に落とし込んだものをそこで使うという印象であった。
- 地元で自分の取り組みをするとすると、ない人が考えるのがむづかしい。
- 自分の中の関心に活用する、というのは、海外ルーツの一人とコミュニケーションすることに活用するということを考えて企画したが、上記の指摘したものになっていた。

講座全体の目的達成度（コアグループ会合より）

- 橋渡し役の育成を通して、海外ルーツの市民や日本の市民が、互いの違いを尊重し、誰一人取り残されない、みんなが参加できる(大きな)場をつくることに貢献する。 4/5

(理由)

- 各回講座の達成度から 第一回目的1: 4/5 目的2: 3/5
第二回目的: 4/5
第三回目的1:4/5 目的2: 4/5
- ユースメンバーの成長(グループファシリアンケート 10人からの回答)

コアグループ活動のインパクト 1

<コミュニティ=ビロッキング>

- 今回は、前年度よりも、使命感を感じて関わる事が出来たと思います(特に第3回講座)。これはビロッキングについて問うてるのであろうと思いますが、自分が属しているコミュニティの1つであるとは言えるかなと思います。
- 講座自体をよりよくしようとする中で、色々な所属の人が運営に関わっていると意見や立場が偏らなくてよかったと思う。様々な所属、地域の人と関わりを得られて、同じ方向に向かって歩む人々とコミュニティをつくれた気がする。
- 講座や準備を通して、今まで見えてこなかったものが見えるようになった。そして、コアグループのメンバーや参加者の方々が皆エネルギーで面白くて、知り合えたことをとても嬉しく思う。

コアグループ活動のインパクト 2

<ファシリテーション>

- コアグループである自分が、3回という限られた講座の中で参加者に対して、プログラムを提供しきれなかったという反省があります。対話能力は数を重ねるしかありませんが、ファシリテーションスキルは勉強します。
- 個人的にはあまり積極的に参加することができなかったと思います。自分の知識不足でうまく発言ができませんでした。また、ファシリテーターとしての力がもっと欲しかったので、来年はファシリとしての勉強会も開いて欲しいと思います。

コアグループ活動のインパクト 3

<成長>

- 3回の講座を通して自身がとても成長できたと思います。難しい問題について時間をかけて自分なりの解決策をチームで見出したのが一番の習得でした。
- 広報して、画像作りも初めてでしたが、こうしたら目に留まるかなや文章を考えるのは難しかったです、楽しくもありました。

2025年度に向けての提案

- コアグループ→ユースにさらにイニシアチブを移行
- コアグループ勉強会(以下の2項目について)
 - ファシリテーション(臨機応変対応)
 - 共生社会の実現に向けて必要な知識(制度的、構造的、格差)
→基本情報の提供を私たちが作成
- 2025年度講座(2024年度の改善版)と、2024年度講座の発展版アクティビティ(NEXT STEP)の同時並行実施
- 保見団地訪問 — 交流の対象の検討:若い人たち、移民の人たち

ありがとうございました。

